

心理実践実習Ⅵ(事例検討実習Ⅰ)

選択 1単位

稲垣 綾子・稲田 尚子・花嶋 裕久・
池田 政俊

1. 授業の概要(ねらい)

心理療法はチェスのようなもので、基本的なルールやある種の定石は書物や講義によって学ぶことができるが、それから先は書物や講義ではとても困難だとされている。実際は、継続して個人的指導すなわち個人スーパービジョンを受けるか、自分自身が心理療法を受けることが望ましいとされているが、グループスーパービジョンやケースカンファレンスも有用である。

このようなグループでの事例検討では、もちろん現場での臨牀的な当事者間のリアリティはある程度損なわれざるを得ないが、当事者間だけでは見失いがちな客観的視点を取り戻し、視野を広げ、技法や理論・病理などの理解を深め、孤立せずに支えを得ることが可能である。これは報告者だけではなく、参加者にも有用な方法であり、まさに、心理療法家となるうえで必須のトレーニングであるといえる。

本演習では、初学者として、ケースカンファレンスに参加し、発表と討議を通して、事例の理解を深め、実践スキルを修得する。つまり、詳細に報告された事例からケースの見立て方や面接の進め方を学び、さらに、教員を含めた参加者となされる討論から、様々な立場からのケースへのアプローチや論点について学ぶ。この演習は、心理療法の実践的なトレーニングの第一段階となるものである。

2. 授業の到達目標

本演習は、初学者としてケースカンファレンスに参加するものであり、準備を含めた参加の態度や守秘義務の遵守、クライアントの尊重といった心理療法家の基本を習得する。

発表と討議を通して、事例の理解を深め、実践スキルを修得する。

3. 成績評価の方法および基準

ケースカンファレンスへの参加の態度、リアクションペーパー等を通して、総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

山本力・鶴田和美編著 『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』 北大路書房

リー・ビンスカー著、秋田恭子、池田政俊、重宗祥子訳 『サポーティブ・サイコセラピー入門―力動的な理解を日常臨床に活かすために―』 岩崎学術出版社

北山修監修、妙木浩之、池田政俊編著 『北山理論の発見―錯覚と脱錯覚を生きる』 創元社

岩崎弥生、渡邊博幸編、『新体系、看護学全書 精神看護学Ⅰ 精神看護学概論 精神保健』(第1章「精神(心)」のとなえかた Ⅱ 精神(心)の構造と働き pp46-74、池田政俊) メヂカルフレンド社

5. 準備学修の内容

関連する各講義(心理学療法特論、臨床心理学特論、臨床心理面接特論など)を受講することはもちろん、各講義で提示された文献を読み、事前学習を欠かさず、積極的な態度で臨んで欲しい。心理療法に関する知見を深めて置くことが望ましい。

6. その他履修上の注意事項

真剣に学ぼうとしている他の院生の邪魔をしないこと(私語、携帯電話、遅刻・欠席など)
主体的・創造的な参加が望まれる。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目です。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションと心理臨床センターの入室について
- 【第2回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第3回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第4回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第5回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第6回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第7回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第8回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第9回】 報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第10回】 スモールグループに分かれ、報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第11回】 スモールグループに分かれ、報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第12回】 第10回・11回の報告・討議内容について、ディスカッションを行い、報告・討議された事例についてより理解を深める
- 【第13回】 スモールグループに分かれ、報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第14回】 スモールグループに分かれ、報告・討論を通して事例の理解を深め、心理療法の実践を学ぶ
- 【第15回】 第14回・15回の報告・討議内容について、ディスカッションを行い、報告・討議された事例についてより理解を深める